W母手記

Aの誕生日は２０１９年１２月２４日のクリスマスイブで、まさにクリスマスプレゼントだね！と皆から祝福され誕生しました。Aは自宅で出産したのですが、検査を受けるため産まれたばかりの赤ちゃんを真冬に外へ出すことに気が引けたこと、産後Aの様子に特に問題は感じられなかったことから、新生児スクリーニング検査は受けませんでした。その後、コロナが流行りだし、実家に帰省したため、３．４か月検診は受けられませんでした。Aが７か月になる前に家に戻り、６．７か月検診を受診すると、聞こえの検査で引っかかり、精密検査の結果、難聴と診断されました。その後、８か月になってから早期教育相談にお世話になり始めました。

① 子どもとのコミュニケーションで大事にしてきたこと

一番気をつけていたことは「目線を合わせる」ことです。聞こえにくい子を育てるうえで大切なこととして教えていただいた目線を合わせること、簡単そうで非常に難しかったです。目線を合わせるということに意識してみると、長女を育てるうえでどれだけ声に頼っていて、目線を合わせずにすましていることが多かったのか実感しました。最初の内はそんなに長い時間目線も合わなかったので、こちらが伝えたいこともなかなか伝えられず、必死にAの目線に入るよう努力しました。また、途中で目線が外れたとき、次に合うまで「待つ」ということも心がけています。

また、Aが考えたり思っていること、興味を持っていることが何なのかを常に考えるようにしました。そのためには、Aの行動や目線の先をよく観察することにしました。例えば、目線の先にハトがいたら、「ぽっぽだね」と手話と共に言うようにしています。また、Aを観察しているとAなりの手話を発見することができます。その際には、「そうだね！〇〇だね！」と同意や共感を手話と共にするように心がけています。

②子どもとの生活習慣で大事にしてきたこと

生活習慣で大切にしていることはこれからする行動を伝えるということです。例えば、私がお手洗いに行くときには「ママ、お手洗いに行ってくるね」と手話と共に伝えてから行くようにしました。最初、「お手洗い」の手話もまだ理解できていなかっ

たときは、私が立ち上がるとすぐに泣き始めていましたが、「お手洗い」の手話を理解し始めると、私が立ち上がり泣こうとしても、「お手洗いに行くから待っててね」と伝えると、納得したようについてきたり、先回りするようになりました。

外出する際も、これから行く場所をきちんと事前に伝え、Aにとって瞬間移動になることがないようにということも心がけています。

③ママが努力してきたこと

Aと密に付き合うためには時間が必要でした。どちらかというと、一日にたくさんの予定を入れ、どうすればこなせるか考えながら生活していました。しかし、一つ一つのことを丁寧にしようとするとどうしても時間が足りず、丁寧に付き合うことができなかったり、今日はできなかったことがたくさんあったな、と後悔したりしていました。そこで、とりあえず予定は詰め込みすぎないようにし、気持ち的にも時間的にも余裕をもち、Aと向き合うようにしました。

①で待つことも大切にしているといいましたが、待つことも得意ではありませんでした。なので今は待とう！と意識するようにしています。

④ママの中での変化

私はもともと出不精なのですが、Aは外へ出ることが大好きです。よく靴を私にもってきて外へ出ようと誘ってきます。また、お風呂あがりのお着替えは気が乗らないのかとても時間がかかりますが、外へ行くための着替えはとても協力的で早いです。以前はコロナのこともあってなかなか外へ出たいとは思わなかったのですが、Aをみていると、家の周りをお散歩するだけでも！と出かけるようになりました。Aと一緒にお散歩すると今まで気が付かなかったことに気づかされます。たとえば、Aは駐車場の回転灯が気に入っているのですが、こんなところに！というところにある回転灯を発見し、ぴかぴかという手話で私にその存在を教えてくれます。また、鳥や飛行機など、普段ひとりだと見つけられないようなものを教えてくれるので、今ではお散歩の時間を一緒に楽しめています。

今年はコロナが流行り、マスク生活が常となり、お散歩するにも公園で遊ぶにもマスクが必要で本当にもどかしい日々が続きました。また、色々な人と以前のように気軽に会うことができなくなった中、早期教育相談で先生方やお母さんたちと共にする時間は本当に楽しく、いつも刺激をいただいています。有難うございます。これからもどうぞよろしくお願いいたします。